



四中の生徒サポート体制について

中学校時代、それは心身ともに大きく成長し自立に向けて準備をする時期です。多感でこれまでになく大きな変化が起こるこの時期は、感情の起伏も激しく、戸惑ったり苦しんだりすることは誰にでもあります。時には専門的なアドバイスや支援体制が必要になることもあります。

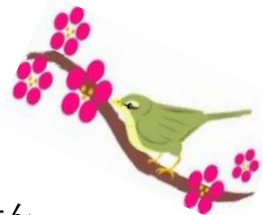
そのような時、関係の専門家と連携を取りながらお子様の支えになりたいと思います。人間の成長や発達、そして悩みは一人一人異なります。

本校では、生徒サポート体制についてより多くの保護者の皆様にご理解いただくことが必要であると認識しております。つきましてはこの冊子を通して本校の生徒サポート体制についてご理解の上、必要な時には是非ご相談くださることをお願い申し上げます。

なお、ご相談がなくても学校側で支援が必要と判断した場合には、こちらから保護者の方へご相談を申し上げます。その際はご理解とご協力をお願いいたします。

1 お子様の変化に気づいたらすぐにご相談ください

- | | |
|---|---|
| ☐ 性格・行動に気になることがある。 | ☐ 最近、反抗的な態度をとってしまう。 |
| ☐ 発達上の心配がある。 | ☐ 集団になじめない。 |
| ☐ 生活のリズムがつかれない。 | ☐ 人の視線が気になる。 |
| ☐ 提出物や宿題が出せない。 | ☐ 学校の配布物が家庭に届かない。 |
| ☐ 身の回りのことが整理できない。 | ☐ 落ち着きがなく、座ってられない。 |
| ☐ 教室に入りたがらない・学校に行きたがらない。 | |
| ☐ 朝、学校に行こうとするとお腹がいたくなる。 | |
| ☐ 長時間勉強しているが、あまり定着しない。 | |
| ☐ 思ったことをそのまま言ってしまう、トラブルを招いてしまう。 | |
| ☐ 友達となじめない・ペースがゆっくりでついていけない。 | |
| ☐ 板書を写すこと、音読、作文など苦手な分野がある。 | |
| ☐ 初めてのことや急な変更が非常に不安である。 | |



2 相談窓口は担任ですが、以下の職員だれにご相談いただいてもかまいません

電話 学校代表 042-324-3811

- ① 担任、学年の教員、部活動顧問、管理職、その他(相談しやすい職員)
- ② 養護教諭
- ③ 特別支援教育コーディネーター

学校生活への適応、不登校生徒への支援など、その生徒に応じた支援が行えるよう、サポート体制の連絡調整を担います。具体的には、支援方針を立案し、校内の職員間および外部機関との連絡・調整を担います

- ④ スクールカウンセラー 伊賀 美夕季

※1 相談日は年間32回、原則 金曜日です。

※2 予約の申し込みは、担任または養護教諭を通してお願いします。なお、金曜日に限り、カウンセラー直通電話(042-324-2800)が利用できます。ただし、相談中は留守電となりますので、折り返しご連絡します。

3 サポート体制の協議について

本校では毎週校内支援委員会を開催し、生徒一人一人のサポート体制を協議しています。会議には、管理職、特別支援教育コーディネーター、生活指導主任、養護教諭、各学年の担当者、スクールカウンセラー、つばさ教室支援員などが参加して、普段の生活の様子やそれぞれの立場から専門的な見解を出し合うことによって、より良い支援を継続して行えるようにしています。

学校だけでは支援が難しい場合もありますので、月1回、国分寺市子ども家庭支援センターの職員および、家庭と福祉のパイプ役を担うスクール・ソーシャル・ワーカーも同席します。

生徒の特性や困っていることを把握し、どのような支援が必要か、それぞれのメンバーの専門性を踏まえて協議します。そしてその生徒に合った学校生活、人や集団との接し方、学習の仕方が身につくよう、支援していきます。また、不登校生徒の学校復帰に向けた支援についても合わせて実施しています。その中で、学校だけではなく外部機関の支援も必要であると思われる場合は、ご家庭と相談の上、連携を図っています。

<参考事例>

保護者の方をスクールカウンセラーへつなげて心理的サポートを行うことでお子様にも良い影響が表れた事例、家庭支援や福祉機関との連携を図りご家庭を支援することでお子様が安心して学校に通えるようになった事例、学習面で心配な生徒をサポート教室（以下参照）へつなげ、学習支援を継続して受けている事例等がございます。まだまだ、至らない点も多々ありますが今後も継続して四中生を支えてまいります。

4 学習面でのサポートについて

四中では通常の授業の他に以下のような取り組みを行い、生徒が苦手を少しでも克服できるようサポートしています。

① サポート教室の設置

毎週月～金曜の午前9時10分（月曜のみ午後1時05分）から、学習面のサポートを受けられるサポート教室を設置しています。教室で集団での学習や生活が困難と思われるお子さんも、こちらで学習することができます。また小学校の学習の復習などを行い、基礎基本の定着を目指すこともできます。

学習方法は自主学習ですが、教員免許をお持ちの支援員もしくは大学の教職課程に所属し教員を目指している大学生による助言を受けることができます。利用にあたっては、担任もしくは特別支援教育コーディネーターよりご連絡させていただきます。

② 放課後サポート教室

毎週月・火・木・金曜の放課後に自主学習ができます。毎年4月に全校生徒に申込書を配布しますので、希望があれば申し込むことができます。希望者が多い場合は、参加曜日の調整を行わせていただきます。

5 お子さんが登校を渋った時の欠席連絡について

明らかな風邪の症状などの場合を除き、お子さんが体調不良を訴え登校を渋った時は注意を要します。心の不安定さが体に出ることもあります。

どうしても休むことになった場合は、学校に連絡していただくことになります。その際、単に欠席とご入力いただくだけではなく、お子さんの様子を付け添えてください。朝の時間帯はご連絡が難しいこともありますが、なるべく早めに担任よりご連絡させていただきます。不登校の初期症状は早めに対応することが重要となります。

6 お子さんの発達上の心配があるとき

読み書きなど特定の学習部分が苦手である、対人関係がうまく結べない、知的には問題がないのに行動面でついていけないなど、発達上の困難をもっている生徒がいます。

このような生徒は、「自分はこんなに努力しているのにみんなと同じようにできない」など、自尊感情が低下してしまう傾向があります。気になる様子がある時は、できるだけ早く担任もしくは特別支援教育コーディネーターまでご相談ください。必要に応じて各種相談機関のご紹介や発達検査をお勧めさせていただきます。それにより、生徒自身の努力が足りないわけではないということが分かり、精神的に落ち着くとともに、その生徒に必要な支援方法を助言してもらうことができます。

7 四中 つばさ教室について

主に発達上の課題や在籍校での適応に困難を感じている生徒を対象に、自立訓練や学習支援を行うための教室（四中つばさ教室）があります。

巡回指導員が週に1～2回 四中に来校し、専門的な見地からの支援を行い、個別指導や小集団指導を通してコミュニケーションや対人関係などの社会性を高めます。

また、本人の特性を踏まえた学習の仕方を身につけたり、運動や手先の技能を高めたりすることに取り組んでいます。自己理解や進路選択など、自分のことについて考える力をつけていくことも指導しています。

入級には、国分寺市教育委員会の個別支援委員会での審査が必要となります。まずは、四中の相談しやすい職員にご相談ください。また、つばさ学級では入級説明会や見学会なども行っております。

8 外部機関との連携

① 教育相談室 （ひかりプラザ3階 042-573-4376）

カウンセリングや発達検査を受けることができます。教育相談室にはスクールソーシャルワーカーも所属し、学校との連携を図れるようにしています。

② トライルーム（ひかりプラザ3階 042-573-4379）

不登校生徒の学校復帰をめざし、学習支援や適応訓練を行います。入級には、体験入級と面談を行った上で、申請手続きを行います。

③ 子ども家庭支援センター（光町3-13-20 042-572-8138）

子育てや家族関係についての相談や支援を行ってくれるところです。

また、お子さんが、学校や身近な人に相談できないことについても、秘密厳守で相談にのってもらえます。 **子ども専用相談電話 042-572-3725**

④ 上記の期間との連携だけでは難しいと判断した場合には、小平児童相談所、立川保健所とも連携し、お子様とご家庭の支援にあたります。

思春期の子供が求める愛情と支援（参考）

人間の子供は、生後約3か月間は自分では何もできない状態で生まれてきます。親は子供に付きっきりで世話をしなければならず、とても大変です。でも、時々見せる天使の笑顔が、親の愛情に対する感謝の表現であったと思います。

その愛情がエネルギーとなって次は這い這い、やがて歩き出すようになります。公園に連れていくと、親の手を振り払って一人で歩き出そうとします。親は転んでケガをしないか心配で仕方ありません。でも、子供のそばに付き添いながら励ましました。子供もそれに応え、何度か痛い思いをしながらも歩き方を身に付けてきました。

このように、子供は親の愛情をエネルギーに、自ら進んで行動し、どうすればうまくできるか経験を通して学んできました。そして、思春期盛りの中学生となります。

やはり、必要なのは親の愛情と支援です。でも、愛情といっても生後3か月間のように何でもしてやる愛情ではありません。**思春期の子供が求める愛情と支援は、「ある程度距離を置いて、自分で判断し行動できる環境を整えてもらい、道からそれそうになったときは厳しく叱ってもらうこと」**です。

思春期には、赤ちゃんの時のような天使の笑顔はありません。あるのは生意気で反抗的な態度です。それは、親から距離を置いて見守ってほしいというサインなのです。その思春期ならではの親の愛情を実感した子供は、さらに一歩自立に向けて歩みだすことができます。

思春期は個人差もありますが、11歳ころにはじまり、14歳ころにピークを迎えます。やがて、17歳になるころには収束し大人の笑顔を見せてくれることでしょう。